

令和元年5月8日（水）

## 見方はひとつじゃない

おはようございます。

今年は、10日間にもおよぶ長いGWでしたが、気持ちは学校生活に切り替わっているでしょうか。

特に、1年生は、入学して約1か月が過ぎようとしています。部活動も始まり、やや疲れ気味の人もいるでしょうか？

さて、今朝は、まず、皆さんに質問してみたいと思います。

「10円玉って、どんな形ですか？」

「マル・・・確かに上から見ると、丸い形に見えます」

「シカク・・・そうですね。真横から見ると、四角に見えますね。」

それだけですか？

「斜めから見ると、楕円形にも見えます。」

「平面ではなく立体として見ると円筒形にも見えますね。」

どの答えも正しい答えです。きっと、多くの人が「10円玉の形はマル」と思ったかもしれませんが、「見方」を変えると、または発想を変えると、いろいろな正解が生まれます。

こうした「見方による多様性」は、世の中の多くの事に当てはまることです。

例えば、人の見方（イメージ）も同じことが言えます。

「石田先生って、どんな先生？」

と聞かれたら、皆さんは、何と答えますか？

「女子バス部 部長 熊谷さん」

「2年1組 学級委員 谷口君」

石田先生をいつも同じ方向からしか見ていないと「〇〇な先生」「〇〇な先生」といった答えが多いのかもしれませんが、「生徒を思う気持ち」という見方から石田先生を見ると「生徒の事を本気になって考えてくれる先生」という答えが出てくると思います。

それが証拠に、中学校に来る卒業生が1番多いのは、ダントツで石田先生なのです。高校生はもちろん、高校を卒業し、成人を過ぎた人も、懐かしい石田先生に会いに帰ってきます。

新しいクラスが始まり、1か月が過ぎました。

クラスの友だちへのイメージも徐々に固定化されつつあると思います。

でも、そのイメージは同じ角度から見た見方ではないですか？

上から、下から、右から、左から・・・今まで見ていなかった角度から友だちを見てみましょう。

きっと、今までとはちょっと違った友だちの面を発見できると思います。これから、体育祭の練習も本格化します。練習の時なども、友だちの新し

い一面を発見できる良い機会です。

今日は、「見方はひとつじゃない」ということについて話しました。

以上です。